



◀ 曲淵ダムへ向かう市道の途中にかかるコンクリート製の「落合橋」。昭和8年に作られたこの橋は、1900年代初期に流行したアールデコ様式の影響を受けてデザインされたと考えられ<sup>(※)</sup>、高欄部分は、曲線的な開口部を設け内部を柱で分割する、幾何学的なパターンが連続する形をしています。

落合橋より1年前に作られた「曲淵橋」▶は、ダム建設の際に曲淵城跡内に移転した山神社すぐ下の県道にかかっています。こちらの高欄部分も同じ形が繰り返すデザイン。つくられてから90年が経過するこれらの橋は、曲淵ダム同様、福岡市の近代化を物語る遺産のひとつです。



※羽野 暁「福岡県における大正～昭和初期地域橋梁の親柱・高欄意匠特性」『第一工業大学研究報告』第27号.2015

### 表紙の写真 曲淵ダム（手前は曲淵ダムパーク）

大正12（1923）年に竣工し、平成21年に福岡市有形文化財に指定された曲淵水源地道施設（曲淵ダム）。よく見ると、中ほどより少し上から、壁面のブロックの様子が変わっているのがわかります。これは、拡張工事を行った証拠。福岡市の人口増加とともに、曲淵ダムは複数回の拡張が行われ、貯水できる量も増加しました。建設当時31.2mだった堤高は、現在では45mになっています。

# 歴史の風

ふくおか文化財だより

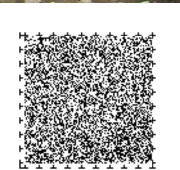
Vol.38

2022年9月号



**New!**  
誌面を  
リニューアル  
しました

曲淵ダム（手前は曲淵ダムパーク）



編集・発行 / 福岡市経済観光文化局文化財活用部  
〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1 / TEL : 092-711-4666  
福岡市の文化財HP : <https://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>



特集 脊振山麓に息づく歴史と文化

音声コードのご利用には、Uni-Voiceのダウンロードが必要です。

## 特集

# 脊振山麓に息づく 歴史と文化



来年2023年は、福岡市の水道事業が開始してから100年の記念すべき年。今回は、福岡市水道事業始まりの地とも言える、曲淵地区とその周辺エリアの歴史や文化をご紹介します。

脇山地区では、旧石器時代以降、人々が活動していたことがわかっていますが、特に縄文時代では生活域がこの地区の広範囲にわたっていたことが知られています。縄文前期（約5,500～7,000年前）と、縄文晩期（約3,000～2,300年前）の遺物が多く見つかることから、この時期に脇山地区での活動が最も活発だったと推測されます。

ところが弥生時代になると、急激に生活の跡が少なくなります。水稲耕作の導



▲縄文土器（椎原A遺跡）

入などにより、それまでとは異なる平野部へ人々の生活拠点が移っていったことを示しています。

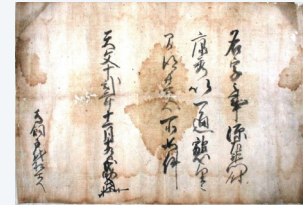
その後、9世紀後半になると紀伊国熊野から来た比丘尼が堰を築いて水路を開いた、という伝承が残っており、現在も残る水路は脇山地区の豊かな田畑を潤しています。実際に発掘調査では、この水路に沿って集落が営まれていたことが確認されました。水路開拓により周辺地域の開発が進んだことは確かです。

曲淵小学校東側の城山と呼ばれる一帯は、戦国時代の終わり

脊振山の豊かな自然に包まれたこのエリアは、中世の山岳信仰の隆盛とともに栄えた脊振山東門寺の寺領で、戦国時代には荒平城や池田城が築かれ、筑前と肥前の国境に位置する交通の要衝でした。山間部の水田開発には熊野比丘尼の伝承も残され、昭和天皇の即位時には大祭に用いる新穀を穫るための主基斎田に選ばれるなど、山村と農村の様相を併せ持っています。



今回の紹介エリア



▲鳥飼文書

頃、高祖の原田氏に属する曲淵河内守氏（房）助・信助父子の居城（曲淵城）がありました。曲淵に隣接する石釜は、曲淵氏と主従関係を結んだ鳥飼氏が治めており、鳥飼家に残された「鳥飼文書」（福岡市指定有形文化財）からは、中世後期における石釜周辺の領地経営や経済活動に関する様子が読み取れます。また、この頃から現在の福岡から佐賀に至る旧三瀬街道が開かれ、江戸時代には重要な交通網のひとつとして利用されてきました。

## 脊振山麓の四季

# 春



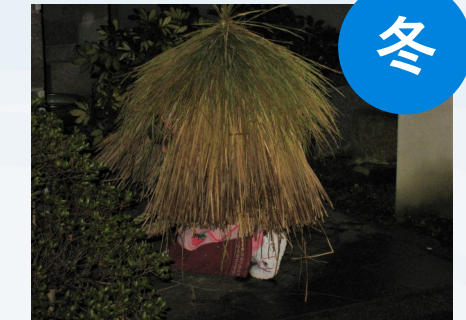
昭和天皇即位の際の大嘗祭に献上するお米を作る主基斎田で創作された田植舞は、今でも毎年踊られている。

# 秋



明治25（1892）年に始まった飯場神楽。諸道具と記録は、平成11年に福岡市有形民俗文化財に指定されている。

# 冬



豊水・豊作を願って行われる小正月の行事、石釜のトビトビ。福岡市指定無形民俗文化財。

## もっと知りたい！



掲載してある文化財についてもっと知りたい！そんな方のために、福岡市内の図書館やインターネットで閲覧できる資料をご紹介します。

◇埋蔵文化財⇒『福岡市史』資料編考古1 福岡市史編さん室2016

◇トビトビ⇒松村利規「小正月の行事 トビトビ」福岡市博物館企画展示アーカイブズ1997

◇鳥飼文書⇒吉良国光「筑前国早良郡脇山地方における村落の形成について」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第239集』福岡市教育委員会1991